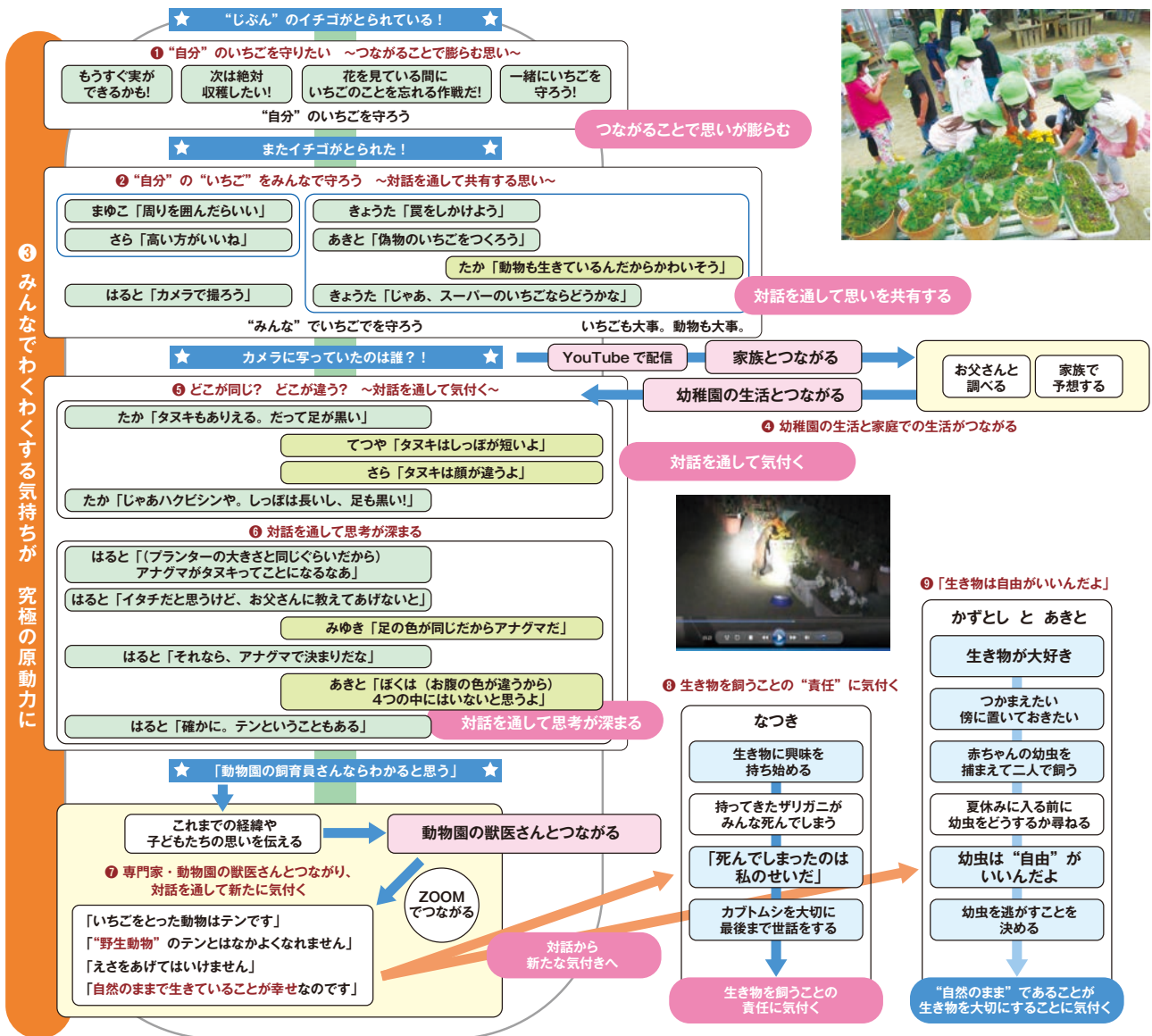


イチゴを食べたのは誰？ ～対話で【探求】【命の気づき】～ 5歳児 5月

昨年末から、一人一鉢でイチゴの苗を育て、冬越しをして花が咲き、実が生り、植物を愛でる気持ちが芽生えてきている。ところが、網をかけていたにもかかわらず、連休中にイチゴがいくつか盗られていた。下図は、子どもたちが「イチゴを食べたのは誰？」という身近な事象に興味をもって関わり、安心し信頼のおける「つながり」の中で「対話」を重ね、意欲的に目的に臨み、自らの思考を深めていく過程を示す。



考察

子どもたちは、身近な出来事や問題を探る仲間との対話を通して動植物への親しみを深め、考えが違う友達と「複数の視点で比べ、総合的に判断すること」の必要性に気付いた。そして、栽培物を守るという共通の関心事は、同じ環境で生きる生き物への興味や疑問への探究となり、子どもたちは対話を繰り返す中で問題解決や興味の対象への思考を深めている。また、家庭や地域社会、専門家との関わりによる探究の継続は、「生き物の幸せを知る・考える」という生き物との向き合い方や関わり方の深化につながった。